

地方独立行政法人天王寺動物園の業務実績評価シート

別紙

(令和3年度中実績・令和4年度評価)

【大項目評価点】
 S：特筆すべき進捗状況
 A：計画どおり
 B：おおむね計画どおり
 C：やや遅れている
 D：重大な改善事項あり

【小項目評価点】
 V：計画を大幅に上回って実施している
 IV：計画を上回って実施している
 III：計画を順調に実施している
 II：計画を十分実施できていない
 I：計画を大幅に下回っている。

【小項目評価（V～I）の大項目評価（S～D）への反映の考え方】
 ●小項目について、おおむねIIIの評価であれば、大項目はB評価を基本とする。
 ●大項目について、B以外の評価を行う場合は、小項目の評価でIV以上の高評価・II以下の低評価となっている項目について、単に項目数ではなく、中期目標の達成度等を考慮し、総合的に判断の上、その理由を示す。

大項目（中期目標より）				小項目（R3年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1 動物展示の充実と快適な園内環境の創出による動物園の魅力向上	A	・Twitterを新たに開設し、日々情報発信に努めるなど、中期目標に掲げる魅力発信の強化という観点で計画以上の取組が行えている。 ・また、中期目標でめざす、来園者満足度を高めるための園内サービスの充実について、その基本であるホスピタリティマインドが少しずつ醸成出来てきているようである。 ・以上のことから、初年度として順調に進捗していると判断し、A評価とする。	1	獣舎整備計画等に基づき、動物導入計画を策定する。これに伴い、必要に応じてコレクション計画、飼育方針文書等も変更する。	IV	IV	
				2	JAZA（日本動物園水族館協会）の個体群管理計画に基づく種別管理を継続して担当する。（ヨウスコウワニ・ホッキョクグマ・シシオザル）	IV	IV	
				3	JAZAもしくはWAZA（世界動物園水族館協会）の学術研究部や普及啓発部の開催する研究会等並びに地域別会議等に参加・協力し、園内で内容を報告する。	III	III	
				4	イベント企画実施の戦略的な指針を策定する。（【6】に関することも含む。）	IV	III	
				5	これまで取組んできたイベントを継続しながら効果検証を実施する。	III	III	
				6	近隣商業施設や交通機関等との連携に取り組む。	IV	III	
				7	感染症拡大防止対策に留意し、イベントを実施する。	III	IV	
				8	効果的でタイムリーな情報発信を行うために広報戦略を策定する。	IV	IV	

大項目（中期目標より）				小項目（R3年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1 動物展示の充実と快適な園内環境の創出による動物園の魅力向上	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Twitterを新たに開設し、日々情報発信に努めるなど、中期目標に掲げる魅力発信の強化という観点で計画以上の取組が行えている。 ・また、中期目標でめざす、来園者満足度を高めるための園内サービスの充実について、その基本であるホスピタリティマインドが少しずつ醸成出来てきているようである。 ・以上のことから、初年度として順調に進捗していると判断し、A評価とする。 	9	ホームページの多言語化について、未対応ページの拡充に向けて、対象とする情報の選別等を検討する。	Ⅲ	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・項目10（情報提供）については、いかに発信を行ったかで評価すべき。 ・項目12（ホスピタリティ研修）は研修を行うことが目的ではなく、来園者満足度の向上が最終目標であることに留意すべき。
				10	メディアへの継続的な情報提供を行う。	Ⅳ	Ⅲ	
				11	感染症防止対策を踏まえた効果的な情報発信を検討し実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				12	ホスピタリティマインド醸成のための体系的な研修計画を立案する。	Ⅳ	Ⅳ	
				13	園内の美観の保持について、定期的に点検する体制と仕組みを構築する。	Ⅳ	Ⅳ	
				14	園内における情報提供の多言語化指針を策定する。（【9】とも連携）	Ⅲ	Ⅲ	
				15	ホッキョクグマ舎の基本設計（令和3年度着手）をユニバーサルな観覧環境に配慮したものとする。	Ⅲ	Ⅲ	
				16	直當時から実施しているゲートへのアンケート箱設置に加え、さらに多くの来園者からの声を収集し、分析検証、園運営へ反映させる仕組みを構築する。	Ⅳ	Ⅳ	
17	来園者の意見も踏まえWeb決済も含めてキャッシュレス決済の拡充を検討する。	Ⅳ	Ⅳ					

大項目（中期目標より）				小項目（R3年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	2 動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進	B	・教育活動の基本となる「教育普及アクションプログラム」を策定し、最終的な目標である今後の行動変容に繋げる第一歩を踏み出しており、おおむね計画どおりと評価する。	18	法人の動物福祉倫理規定を踏まえ、ふれあい事業に対する当園の方針を定め（上半期）、これに整合する具体的な「プログラム」を策定のうえ、事業の検証可能な状態で「新ふれあい広場」の開業を迎える。（令和4年春予定）	Ⅲ	Ⅲ	
				19	プログラムの策定にあたっては、感染症防止対策に留意する。	Ⅲ	Ⅲ	
				20	教育ポリシー・新学習棟の活用を踏まえた教育普及アクションプログラムに基づき園内外におけるメニューを実践する。	Ⅲ	Ⅲ	
				21	各メニューでは、受講者・参加者へのアンケートを実施するなど改善の具体的な材料を収集のうえ、前項アクションプログラムに反映する。	Ⅲ	Ⅲ	
				22	各メニューでは、受講者等参加者が自らの判断で選択可能かつ、即実践可能な行動の選択肢（寄付・エシカル商品購入など）を用意する。	Ⅲ	Ⅲ	
				23	多言語も含めた掲示物作成方針を策定する。（【14】とも連携）	Ⅲ	Ⅲ	
				24	感染症拡大防止対策に留意し、教育プログラムを行う。	Ⅲ	Ⅲ	
				25	これまで実施されていた、NPO法人・ボランティア等との協働メニューを検証し、教育ポリシーを踏まえ継続・発展させていくべきものを選択し、戦略的な協働メニューを策定のうえ、教育普及アクションプログラムに反映させる。	Ⅲ	Ⅲ	

大項目（中期目標より）				小項目（R3年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	3 動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立	A	・環境エンリッチメントやハズバンドリートレーニングなど、中期目標で動物園経営における最重要事項としている「動物園の主役である動物が健康で幸せに暮らせる環境を創出する飼育管理機能の強化」が順調に行えており、A評価とする。	26	日常的な飼育管理を適切に行うとともに、定期的な検証を行い、適宜飼育作業マニュアルに反映させる。（【64】と関連）	Ⅲ	Ⅲ	・項目27・28（動物福祉の取り組み）は結果が出ている印象。
				27	動物福祉倫理規程を踏まえて法人として環境エンリッチメント及びハズバンドリートレーニングを適用する対象種を改めて検討（拡充）のうえ、取り組み方針（計画）を策定する。	Ⅳ	Ⅳ	
				28	環境エンリッチメント及びハズバンドリートレーニングに関する技術知識の共有を図る。（ミーティング・研修教育）	Ⅳ	Ⅳ	
				29	動物福祉の観点から現病院のあり方を検討する。	Ⅳ	Ⅲ	
				30	ふれあい家畜・小動物舎、ペンギンアシカ舎、ホッキョクグマ舎の計画に応じた設計や整備を着実に実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				31	獣舎整備計画について、独立行政法人の発注による優位性を踏まえ、改めてコスト縮減を検討するほか、必要に応じて計画内容の再検討も行う。	Ⅳ	Ⅲ	
				32	維持管理計画に基づく点検・補修を着実に実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				33	当面新築が予定されない既存獣舎について動物福祉の観点から実施可能な小規模改良箇所を検討する。	Ⅲ	Ⅲ	

大項目（中期目標より）				小項目（R3年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	4 繁殖及び調査研究活動の推進	A	・最終的な目標である種の保存へ貢献するために、クラウドファンディングという新たな取組により、繁殖活動の推進への足掛かりを作ったことが評価でき、A評価とする。	34	飼育方針文書における繁殖推進種である、クロサイ、カバ、ブチハイエナ、ジャガー、マレーグマについて、繁殖が行われるような環境を整えるなど、繁殖推進種ごとの具体的なチェックポイントを定め履行する。	Ⅲ	Ⅲ	・項目36（ニホンイシガメの保全）は、クラウドファンディングはあくまでも手段であるので、プロセスを評価したことがわかるようにするべき。
				35	域内保全への支援活動としてツル類での人工授精手技の確立のため、先進的な園での実習や所内研修を取組む。	Ⅲ	Ⅲ	
				36	大阪府産ニホンイシガメの保全活動に引き続き取組む。	Ⅳ	Ⅳ	
				37	域内保全活動のための組織体制や保全種の活動について検討する。	Ⅳ	Ⅳ	
				38	これまでの調査研究内容を整理し、今後、園が5年間で取組むべき調査研究の対象を決定する。	Ⅲ	Ⅲ	
				39	周辺の大学、研究機関と恒常的な連携関係を構築すべく、協力を依頼し、連携協定締結を目指す。	Ⅳ	Ⅳ	
				40	ホームページ等で大学等の研究機関との協定による研究実績や、取組み段階でも可能なものについては公表し、知見の共有を図る。	Ⅲ	Ⅲ	
				41	研究の成果については、研究会等において発表を行う。	Ⅲ	Ⅲ	

大項目（中期目標より）				小項目（R3年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	1 自律的な組織経営	B	・法人の体制を点検する仕組みを構築し、現時点では、おおむね計画どおりと言える。	42	研修やホームページ等で法人の目指す姿を情報発信・共有する。	Ⅲ	Ⅲ	・項目44（外部人材の登用）は結果の検証が課題。
				43	組織の役職や人員数の改編・補充については、定期的に棚卸をするなど点検する仕組みを構築する。	Ⅲ	Ⅲ	
				44	R3年度実施の獣舎整備設計はじめ業務実施にあたっては、外部の専門人材登用が必要かどうか検討する。	Ⅳ	Ⅳ	
	2 人材の確保・育成と職員の能力向上・意欲喚起	B	・インセンティブが働く仕組みの構築が今後の課題ではあるが、初年度としては、おおむね計画どおりと言える。	45	人材確保に関する方針及び計画を定める。（人件費計画含む。）	Ⅲ	Ⅲ	・職員の意欲喚起という点で、インセンティブが働く仕組みの構築が必要
				46	全職種対象にオリエンテーションや導入研修を上半期に行う。	Ⅲ	Ⅲ	
				47	飼育業務に従事する職員に現在の年間研修計画に基づく研修を行う。また、テーマによってはその他職員も参加する。	Ⅳ	Ⅳ	
				48	中期目標に掲げる重点項目（ホスピタリティ・ファンドレイジング）に関する研修計画を立案する。	Ⅳ	Ⅳ	
				49	園として対象とする資格を定め、取得の支援を行う仕組みを構築する。	Ⅳ	Ⅳ	
	3 効果的・効率的な業務執行	B	・基本的な体制構築はできており、現時点ではおおむね計画どおりと言える。	50	初年度の運営を行いながら、直當時の制度課題を踏まえ法人の目標に沿った人事評価制度を策定し、評価を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				51	年度計画の各項目に対応した、進捗管理シートを作成する（5月末）	Ⅲ	Ⅲ	
				52	年度計画の進捗状況を毎月確認し、市ともその内容を共有する。その際、達成状況踏まえ、日常業務や次年度計画に反映するとともに、必要に応じて中期計画の変更を行う。	Ⅲ	Ⅲ	
				53	人事財務分野において導入した各種機器の安定運営を図るとともに、複数の職員が日常的に初歩的な操作を行えるような状態を目指す。	Ⅲ	Ⅲ	
				54	飼育部門については、初年度、診療分野に導入する動物カルテシステムを診療履歴のみならず、日常飼育やトレーニング分野へ展開する方針を策定する。	Ⅲ	Ⅲ	

大項目（中期目標より）				小項目（R3年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
3 財務内容の改善に関する事項	1 収入の確保	B	・トップセールスによる物品の寄附など実績を上げており、おおむね計画どおりと言える。	55	入園料収入416百万円・入園者数143万人を目標とする。（令和3年度予算）	Ⅲ	Ⅲ	・55（入園者数）は予算算定時にコロナ影響を加味しているなら、それをベースに評価すべき。 ・56（ファンクラブ）は会費収入よりも支援者を増やすことが重要。
				56	（仮称）ファンクラブを組成し案内する。（第1四半期）	Ⅲ	Ⅲ	
				57	クラウドファンディングを開始する。（第1四半期）	Ⅲ	Ⅲ	
				58	渉外営業戦略（ファンドレイジングを含む。）を立案（第1四半期）し、同戦略に基づき渉外営業に着手する。	Ⅳ	Ⅳ	
				59	寄付額25百万円を目標とする。（令和3年度予算）	Ⅲ	Ⅲ	
				60	ホッキョクグマほか時宜を得たオリジナルグッズの開発・販売	Ⅳ	Ⅳ	
	2 経費の節減	B	・投資的経費への経費抑制効果の発現が今後の課題であるものの、現時点ではおおむね計画どおりと言える。	61	漏水箇所の特定のために、これまでから行っていた各獣舎への水道子メーターの設置を完了させ、漏水が発見された箇所については、修繕を行う。（令和3年度に11か所設置し、全42個所の設置が完了）	Ⅲ	Ⅲ	
				62	設計業務に着手するホッキョクグマ舎について、直営時代と比べて1割のコスト縮減を図る。	Ⅲ	Ⅲ	

大項目（中期目標より）				小項目（R3年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
4 その他業務運営に関する重要事項	1 内部統制の強化	B	・設立初年度にめざすところである基本的な制度構築は行っており、おおむね計画どおりと言える	63	関係法令等を踏まえ、園の業務実態に応じた内部統制体制を構築する。（上半期）	Ⅲ	Ⅲ	
				64	ヒヤリハット事例の共有や飼育作業マニュアルの実施状況の定期的な確認と、必要に応じた改訂を継続する。（【26】と関連）	Ⅲ	Ⅲ	
				65	法人設立当初に整備した諸規程類について全職員に研修する。（上半期）	Ⅲ	Ⅲ	
				66	諸規程類の運用状況を確認のうえ、必要に応じて見直し若しくは新たに整備するなどの対応を行う。（下半期）	Ⅲ	Ⅲ	
				67	当園のみならず、設立団体や他団体のコンプライアンス事例をもとにグループ討議を行うなど参加型の研修を最低年1回は実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				68	各業務において個人情報扱う事務の棚卸を行い、漏洩リスクのあるポイントを明確にし、各種事務における作業上の重要管理ポイントを策定する。（上半期）	Ⅲ	Ⅲ	
				69	重要管理ポイントが順守されているかどうかの点検を行う。	Ⅲ	Ⅲ	
				70	各業務から重要なリスクを発生させるおそれのある事象を選択し、内部監査を行う仕組みを制度化する。（上半期）	Ⅲ	Ⅲ	
				71	内部監査・監事監査を実施し、必要に応じて内部統制環境の見直しを行う。（下半期）	Ⅲ	Ⅲ	
72	情報セキュリティポリシー及びマニュアルを策定し、その運用状況を検証し、必要に応じて改定するとともに、設立団体並みの研修を実施する。	Ⅲ	Ⅲ					

大項目（中期目標より）				小項目（R3年度計画より）				評価委員会意見	
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価		
4 その他業務運営に関する重要事項	2 来園者の安全確保	B	・ 今後は施設整備の状況に留意する必要があるが、現時点ではおおむね計画どおりと言える。	73	今年度設計若しくは工事を実施するペンギン・アシカ舎、ふれあい家畜・小動物舎、ホッキョクグマ舎において、設計上・工事施工上の観点から来園者及び職員の安全対策に配慮する。	Ⅲ	Ⅲ		
				74	獣舎及び園内施設定期点検を着実にを行う。	Ⅲ	Ⅲ		
				75	飼育動物脱走時の訓練を実施する。	Ⅲ	Ⅲ		
				76	受託事業者への安全意識の徹底に加えて、合同での訓練・研修等により質の高い体制とするための方策を検討する。	Ⅲ	Ⅲ		
	3	職員の安全衛生管理	B	・ 現時点ではおおむね計画どおりと言える。	77	産業医及び衛生管理者の選任、ハラスメント相談窓口の設置、職員健康診断、ストレスチェックを行うほか、関連する指針や手引き等を整備する。	Ⅲ		Ⅲ
	4	環境に配慮した取組の推進	B	・ 現時点ではおおむね計画どおりと言える。	78	環境への負荷を低減し、野生動物の生息環境を守るため、WAZAの持続可能性戦略で示されたチェックリストを踏まえ、天王寺動物園の実行可能なSDGsへの取り組み方針を策定し、公表する。	Ⅲ		Ⅲ
5	情報公開の推進	B	・ 現時点ではおおむね計画どおりと言える。	79	法令に定める決算・業務実績報告書等に加え、業務内容に関する資料（年報）を令和4年度から公表する。	Ⅲ	Ⅲ		
6	BCPの策定	B	・ 現時点ではおおむね計画どおりと言える。	80	直當時の対応マニュアルも踏まえ、事業継続計画を整理策定する。（自然災害（地震・台風）、新興感染症（新型コロナウイルス感染症など））	Ⅲ	Ⅲ		

■全体評価

【市長評価】

全体を通して、おおむね法人設立初年度の計画どおりに進捗できている。中でも法人化のメリットである柔軟な人材採用により体制強化を行ったことで、中期目標でも最重要事項としている動物福祉にかかる取組の拡充を行ったり、域内保全につなげるためにクラウドファンディングという新たな手法を実施したことなどは、法人化による効果が出ていると言え、またホスピタリティマインドの醸成が出来てきていることなども評価に値する。
 今後も中期目標の達成に向けた取組を継続するとともに、内容の充実や見直しなど、PDCAサイクルを活用した業務改善を行っていただくとともに、法人の柔軟な契約制度を生かした経費節減などの更なる法人化の効果発現や、職員にインセンティブが働く仕組みの構築など、より一層の発展をめざしていただきたい。

【評価委員会意見】

全体を通して、順調に法人化1年目を迎えることができたという印象である。動物園としての本来的な業務である飼育管理や希少動物種の保全の面で独法化の効果が現れており、魅力向上の観点でも、一定の成果を上げているところは、市の評価のとおりである。
 今後、動物園の本来業務や魅力向上を下支えする根幹部分の経営・組織の面からも総合的な評価が行えるよう、中期目標期間終了時のめざす姿を市と法人双方で改めて確認するとともに、法人の自律性・自主性を尊重したものとなるよう、評価の仕組み自体にPDCAサイクルを回していただきたい。